

2020年11月6日

## 踏切設備のダウンタイム短縮に向けた実証実験を実施します

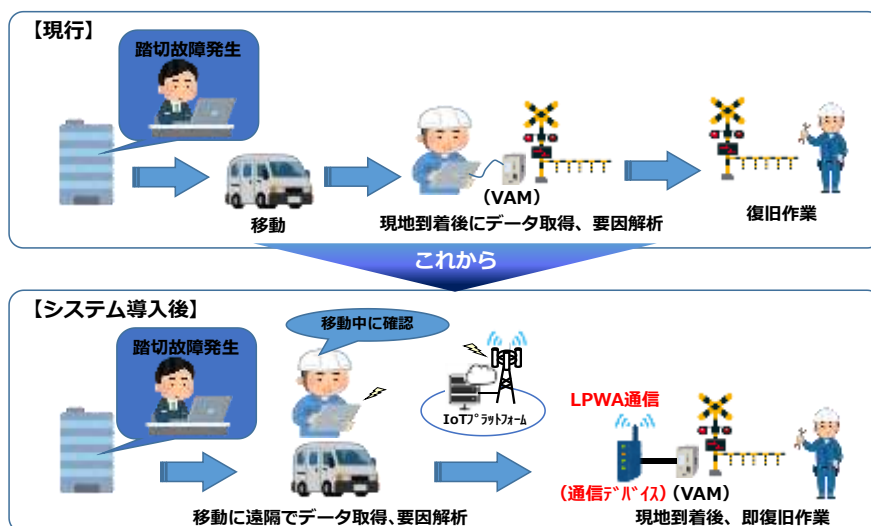
～LPWA通信により踏切設備の動作ログを遠隔取得できるシステムを開発～

九州旅客鉄道株式会社（本社：福岡市博多区、代表取締役社長執行役員：青柳 俊彦）は、ソフトバンク株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長執行役員兼CEO：宮内 謙）および東邦電機工業株式会社（本社：東京都目黒区、代表取締役社長：村田 章臣）と、踏切設備のダウンタイム短縮に向けて、踏切設備の動作ログを遠隔地から確認するシステムの実証実験を2020年11月20日から2021年1月31日まで実施します。

このたびの実証実験では、踏切制御装置や警報機、遮断機などの踏切設備の動作ログを取得できる情報メモリー（VAM）にLPWA（Low Power Wide Area）通信モジュールを搭載した通信デバイスを接続させて、動作確認を行います。また、踏切設備の動作ログをIoTプラットフォームに収集して、係員が遠隔地から確認し、運用面における検証を行います。

これまで踏切設備の故障（警報が持続した状態等）の際は、係員が現場に到着後、情報メモリー（VAM）に解析装置を接続して踏切設備の動作ログを確認していたため、原因の特定に時間を要していました。今回のシステムを活用することにより、係員は遠隔地から任意の時間などを指定して踏切設備の動作ログを確認できるため、復旧対応までの時間が短縮され、交通渋滞や歩行者の滞留の解消が期待できます。

### ■イメージ図



2021年度より、交通量が多く、現地到着まで時間を要する踏切等に本システムを導入する予定としており、今後も故障発生時の早期復旧のため設備改善に努めて参ります。